

[様式14] 〈記入例〉

(対象事業：子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業)

事業名：明治村 みらいプロジェクト

事業者名：博物館明治村

連携事業館名：なし

住所：愛知県犬山市内山1

TEL：0568-67-0314

FAX：0568-67-0358

HPアドレス：<http://www.meijimura.com>

明治村



①施設概要 博物館明治村は昭和40（1965）年に、取り壊されゆく明治時代の建造物を移築・保存・展示公開する博物館として開館しました。現在では建造物では10棟の国指定の重要文化財、1棟が愛知県の有形文化財、その他がすべて登録文化財に、歴史資料では2件が国の重要文化財に指定されています。平成8（1996）年からは、建造物内での体験展示を推し進めており、楽しみながら学んでいただく博物館となるべく、努力をしています。

②事業の意図目的 小中学生に博物館明治村の活動を一部体験する場を設け、博物館の存在意義を伝え、未来の博物館ファンを生み出すとともに、巡回型展示を通して、生きた歴史に触れる機会をつくることにより、子どもたちの歴史に対する興味を深め、日本の文化に対する理解をきっかけとなることをめざす。さらに巡回型展示で使用する教材はアウトリーチ活動にも発展させ、学校教育との連携を深め、事業をより充実したものとしたい。

③事業概要

1) はばたけ！ ジュニア博物館人・・・中学生の職場体験プログラムの提供職場体験のニーズに応え、また中学生の博物館理解を推し進めるため、プログラムを策定し、県内及び岐阜県下の一部の中学校に広く告知し、参加者を募り、博物館の使命を伝え、理解者を育成する。a) 「建物のメッセージ伝え隊」・・・博物館明治村に保存展示されている建物の「明治のくらし」「大工さんの知恵」「快適に暮らす工夫」など、一般見学者に伝える。b) 「文化遺産遺し隊」・・・日々の点検、小修繕などを体験し、文化財を後世へ遺すことの重要性を伝える。

2) 明治村錦絵れきし探偵団（明治村内巡回型展示）・・・博物館明治村で所蔵している錦絵資料の中から明治村内の建物のイメージに近いものを選び、その複製を利用したパネルを展示し、あわせてワークシートを各所に用意。錦絵で視覚的に明治時代を捉え、さらにそこから近代日本の基礎を築いた明治時代の理解を深めてもらいたい。

④事業の製作物及び報告書等

該当するものを選んでご記入ください。

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 (パネル・チラシ)

作成した報告書等

ビデオ ()

冊子 (事業報告書500部作成))

その他 ()

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 1505 人

内 訳 錦絵れきし探偵団・・・1500人 (小学生)

ジュニア博物館人・・・5人 (中学生)

(1) 事業の実施状況について

1) スケジュール

実施にあたっては大まかに下記のスケジュールで行ないました。

平成 19 年 3 月初旬	明治村みらいプロジェクトの概要をプランニング
3 月末	愛知県教育委員会尾張教育事務所とコンタクトをとる
4 月初旬	尾張教育事務所訪問 芸術拠点形成事業応募
6 月上旬	犬山市立東部中学校職場体験受入（試行） 芸術拠点形成事業内諾 教員の方の協力メンバー確定
8 月 1 日	「明治村みらいプロジェクト」事業開始
8 月 12 日	第 1 回打合せ会 事業の説明および役割分担、体裁、テーマ設定に ついて検討
9 月初旬	愛知県尾張地区の社会科教員の方の自主勉強会「社楽の 会」に 参加
9 月下旬	犬山市立犬山中学校職場体験受入
11 月 18 日	第 2 回打合せ会 職場体験プログラムの進め方および「錦絵れきし 探偵団」の 設問等を検討
平成 20 年 1 月上旬	第 3 回打合せ会 「錦絵れきし探偵団」ワークシートの最終確認 職場体験告知チラシ発送
下旬	「錦絵れきし探偵団」ワークシート告知チラシ発送
2 月 6 日	明治村錦絵れきし探偵団事業開始
26・27 日	尾張旭市立西中学校職場体験受入
29 日	「錦絵れきし探偵団」終了
3 月 18 日	「明治村みらいプロジェクト」報告書発行

2) 「はばたけ！ ジュニア博物館人」

中学生向けの職場体験プログラム。見学者に対して伝えることを目的としたガイド体験「建物のメッセージ伝え隊」と、文化財を守る修繕体験「文化遺産遺し隊」の二つのプログラムを作成し、学校のニーズに合わせ柔軟にアレンジ、博物館のファン作りという側面を持った職場体験の実施。



ガイド中の生徒の様子



込栓作り

3) 「明治村錦絵れきし探偵団」

博物館明治村が所蔵している約 2000 点の錦絵資料の中から展示建造物に関連したテーマのものを選定し、建造物と錦絵を連携させて見せることにより、教科書に掲載されていた錦絵をより現実のものとして捉えることができ、また建造物はその中でどのような生活が行なわれていたのかをイメージさせるという両面から明治時代の理解を深めていただけるよう努力しました。11 箇所の建物に 12 種類のパネルとワークシート配置し、パネルとワークシートは博物館明治村に展示されている建造物にゆかりのある偉人「伊藤博文」「石川啄木」「西郷従道」名を冠した 3 つのコースに分けました。これは見学時間の少ない人や「明治村錦絵れきし探偵団」の全貌を理解していきたいという見学者には有効に働きました。

パネル設置箇所

・ 西郷従道コース

- ①西郷従道邸（1 丁目 8 番地）『洋風の服・家具』
- ②三重県尋常師範学校・蔵持小学校（1 丁目 3 番地）『学校』
- ③聖ヨハネ教会堂（1 丁目 6 番地）『音楽』
- ④札幌電話交換局（2 丁目 21 番地）『電話/煉瓦街・銀座』

- 石川啄木コース

- ①呉服座 (4丁目 49番地) 『芝居小屋』
- ②本郷喜之床 (4丁目 47番地) 『髪型』
- ③札幌電話交換局 (2丁目 21番地)
『蒸気機関車』
- ④鉄道寮新橋工場・機械館
(4丁目 44番地) 『紡績業』

- 伊藤博文コース

- ①内閣文庫 (5丁目 59番地)
『憲法発布』
- ②神戸山手西洋人住居 (3丁目 32番地)
『開港した都市・神戸』
- ③鉄道局新橋工場 (1丁目 12番地)
『天皇』
- ④名古屋衛戍病院 (4丁目 37番地)
『内国勸業博覧会』



パネル設置箇所



設置されたパネルと見学者の様子

(2) 地域との連携について

今回初めて博物館明治村の位置する地域の先生方と連携をとることができました。連携させていただいて一番の収穫は、地域の社会科の先生方の自主勉強サークルの存在を知り、そこで先生方から様々なご意見をいただくことができたことではないでしょうか。

当館は愛知県犬山市に立地こそしていますが、開館して以来、地元との連携はほとんどなく、ここ数年犬山市の「全市博物館構想」の一環として、犬山市民対象とした市民大学を開催してはいますが、双方向的なものではなく、一方的な発信のみに終始しているのが現状です。また一時期当館に程近い小学校に授業の一環で当館を利用していただくなどしていましたが、学校側の授業時間数減、当館の要員減などの要因があいまって自然消滅のような状態となった経緯もあります。

さらに近隣市町村の学校は、遠足や社会見学など校外学習の場としても近すぎて足が向かないなど、近くにありながら、博物館明治村の持つ歴史資料としての資源をなかなか認知していただくことができずにおりました。今回先生方にご協力いただくにあたって博物館明治村としては、教材として使用していただく錦絵を選んでいただくために、所蔵している錦絵データをCD-ROMに焼付けお渡ししました。そこでの先生方の反応は、「明治村にこのように膨大な資料が保存されていることは知らなかった。」「授業の教材に使用したい。」など博物館明治村の所蔵資料を文化資源として認識していただくことにつながるものでした。さらに先生方と事業の内容について話しを進めていく中で、「明治村」は地元では「博物館」というより「テーマパーク」としてのイメージが強く、博物館の展示収蔵資料の存在を周知できておらず、来館者にも博物館資源を十分提供しきれていないのではないか、また学校団体の引率の先生方としても「博物館明治村」という文化資源を活用せずに終わってしまっているのではないかなという意見が出されました。今回提供した錦絵資料は全収蔵資料の十分の一にも満たない資料群ですが、先生方からは今後錦絵をはじめ様々な資料を校外学習やアウトリーチとして提供することも必要ではないかとの意見もありました。

今回の連携において、早速授業で錦絵を取り入れてくださった方や、職場体験プログラムを活用してくださった方も現れ、一定の収穫を得ることができました。また博物館明治村の収蔵資料の存在を具体的に提示したことから博物館資料を活用していただく道筋ができたように思います。



打合せ会の様子

(3) 成果物について

「明治村みらいプロジェクト」の成果物としては、「はばたけ！ ジュニア博物館人」においては、告知用チラシを 30000 部作製し、愛知県内および犬山市に隣接した岐阜県の中学校約 500 校に、生徒の人数に応じた枚数を発送いたしました。

また、「明治村錦絵れきし探偵団」においては告知用チラシを 10000 部作製し、愛知県内の小学校全校及び岐阜県・三重県・滋賀県・京都府などで博物館明治村への来館実績がある小学校約 3000 校を抽出し、送付いたしました。また村内展示用パネルを 11 箇所 12 枚設置、それに伴うワークシートを 12 種類各 10000 部と答えを各コースごと（全 3 種）各 10000 部製作しました。事業運営についての報告書を 500 部作製し、関係各所へ発送いたしました。



ワークシート・答え・報告書



チラシ 2 種

(4) 参加者の反応

「はばたけ！ ジュニア博物館人」においてはまず学校の先生からの反応が非常によく、受入先を探すだけでも大変な職場体験において、あらかじめプログラムを作成し、体験する生徒が働くために事前学習したり、他の生徒が行なっている様子をチェックするなど、通常の職場体験プラスアルファがあることで先生方も大いに安心された様子でした。

ガイドを体験した生徒は伝えることの難しさの前に、事前学習で勉強するのが大変だったようですが、難しいながらも自分で理解し、一所懸命伝えたことで見学者の方から、「楽しかった」「よくわかった」などと声をかけられたり、ガイドを聞き終わった見学者の方から拍手をいただくことができたことで、大きな自信につながったようです。

一方、修繕体験の生徒たちはペンキ塗りの準備段階であるケレン作業や、込栓製作など普段全く行なわない慣れない作業であったため、大変そうでしたが、逆に大変であることが文化財を守ることの重要性、大変さを理解することになりました。

いずれの活動も参加した子どもたちからは、大変だったけれど、博物館への興味が深まった、とか、文化財を保存し伝えていくことの大切さが理解できた、などの感想を得ることができました。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

今回助成をいただいたことで、館単独の活動ではできない職場体験の取り組みの告知、および明治建築と歴史を結びつけて総合的に理解を深めながら博物館明治村を楽しんでいただくという活動が可能となりました。

また大量のチラシを配布することで、学校の先生方や父兄の方々にも、博物館明治村が単なる安心できる遠足先ではなく、教育普及の取組みについても深い理解を得たと確信しています。

さらに連携していただいた先生方以外の方にも、博物館明治村の収蔵資料を授業の副教材として使用していただくなど、派生した効果も現れ、地域に開かれた博物館に一步ずつ近づいてきたように思います。